

子ども用



伝道地便り

2024年 第3期 中央アメリカ支部

第1話「さらなる願い」	コスタリカ
第2話「毒ヘビにかまれた少年！」	コスタリカ
第3話「教会に行きたくない」	コロンビア
第4話「音楽の奇跡」	コロンビア
第5話「激しい気性が変えられて」	ドミニカ国
第6話「学校に行くための祈り」	ドミニカ国

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

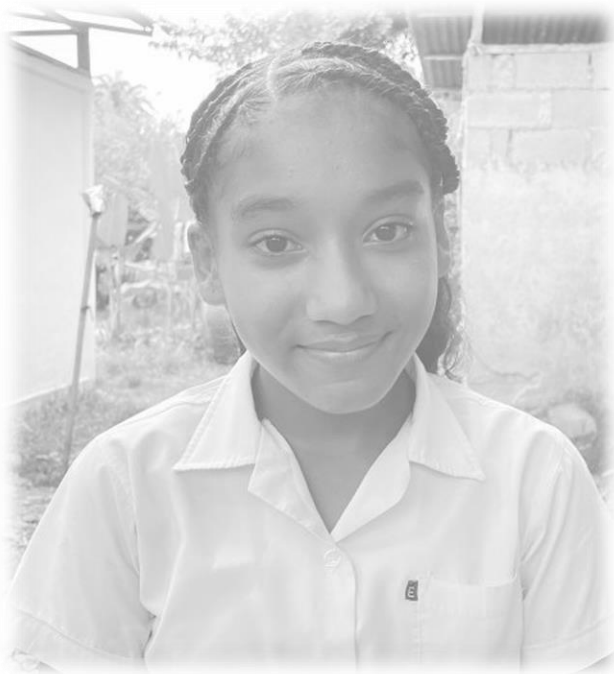
伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか挙げていきます。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. さらなる願い

コスタリカ



デミリー

9歳のデミリーは、コスタリカの新しい町に引っ越してきたばかりです。近所に住んでいるポルフィリオおじさんは、彼女を教会に誘いました。「土曜日に一緒に教会に行こう」

デミリーは、おじさんの招待を喜びました。新しい町には、友だちが1人もいませんし、土曜日には、何もすることがなかったからです。

「そうしたいわ」と、彼女は言いました。

デミリーは、お母さんに教会に行っても良いか尋ねました。お母さんは、それまで土曜日に礼拝する教会を一度も聞いたことがありませんでした。

「どんな教会なの？」と、お母さんは尋ねました。

しかし、お父さんは土曜日に礼拝する教会のことをとてもよく知っていました。

お父さんは、「わたしは、セブンスデー・アドベンチスト教会で育ったのだよ」「とても良い教会

だよ」と、言いました。それで、お母さんはデミリーが土曜日に教会に行くことを許してくれました。

ポルフィリオおじさんは、安息日の朝8時35分にデミリーの家を迎えに来ると、オートバイに乗せて教会に連れて行ってくれました。奥さんのサラお婆さんは、歩いて教会に行きました。彼らの家からアドベンチスト教会までは、歩いてそう遠くなかったからです。

デミリーは、土曜日に教会に行くことを不思議に感じていました。しかし、アドベンチスト教会の音楽やお説教は気に入りました。

彼女は次の安息日も、その次の週も教会に行きました。

さらに、水曜日の夜の祈祷会にも出席するようになりました。聖書を学ぶにつれて、彼女の心にイエスさまへの愛が芽生え始めました。

デミリーは、とても幸せでした！しかし、彼女はそれ以上のものを求めています。彼女は、お母さんも一緒に教会に行ってほしいと願っていたのです。

ある安息日に、デミリーはお母さんを教会に誘いました。

しかし、お母さんは行きたがりませんでした。「今は、教会に行く準備ができていないわ」「多分、あとでね」と、彼女は言いました。

「来てちょうだい」と、デミリーは言いました。「私を見に来てほしいの。今日は、特別讃美歌を教会で歌うのよ」

お母さんは、彼女と一緒に教会に行くことにしました。

次の安息日、お母さんは教会に行こうとは思いませんでした。しかし、デミリーがソングサービスを指揮していたので、お母さんはその日も行くことにしました。それ以降、お母さんとデミリーは毎週安息日に教会に通うようになりました。

デミリーは、とても幸せでした！ しかし、彼女はそれ以上のものを求めています。彼女はバプテスマの準備をしていました。そして、お母さんにもバプテスマを受けてほしいと思っていたのです。

「お母さんも教会でバプテスマを受けるべきだわ」と、彼女は言いました。

デミリーは聖書研究の教材一式を自分で作り、それを使ってお母さんに神さまのことを伝えました。

まもなく、お母さんはバプテスマを受けてアドベンチスト教会に加わりました。デミリーも、バプテスマを受けました。

しかし、お話はこれで終わりではありません。

デミリーは友だちを教会に誘いました。彼女はお母さんのために作った聖書研究の教材を使って、友だちに聖書を教えました。5人の友だちがイエスさまに心を明け渡してバプテスマを受けました。3人の同級生と、12歳の叔母と、12歳のいとこです。

現在、デミリーはコスタリカで一番幸せな女の子かもしれません！ しかし、彼女はまだ、それ以上のものを求めています。

「わたしのお父さんと、まだイエスさまを入れて教会員になっていない残りの家族のために祈ってください」と、彼女は言います。

今期の13回献金は、コスタリカの危険にさらされている子どもたちにイエスさまのことを教えるための感化センターを開設するために用いられます。9月28日に向けて、皆さまの献金のご準備を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・子どもたちに地図でコスタリカの位置を示しましょう。
- ・デミリーの短い動画を Youtube で見てみましょう。 bit.ly/Deymily。
- ・ポルフィリオおじさんは、たくさんの子どもたちを教会に誘いました。過去5年間で、デミリーを含む15人の子どもたちがバプテスマを受

けました。

- ・このお話の写真を Facebook でダウンロードしてみましょう。 bit.ly/fb-mq。
- ・中央アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」を教えてください。 bit.ly/iad-2024。

- ・この伝道地便りと今期の13回献金は、コスタリカの危険にさらされている子どもたちにセブンスデー・アドベンチスト教会の「I will Go」伝道戦略の以下の目標を満たすべく感化センターを開設するために用いられます。

「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）

「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）

詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

宣教メモ

- ・フランクとコラ・ハッチンスは、19世紀末から20世紀初頭にかけてカリブ海中部における最初のアドベンチストの働き人です。フランクは歯科医、文書伝道者、そして、牧師として働きました。その当時、その周辺を移動するにはボートが一番でした。そのため、フランクは宣教用のスクーナー船（2本以上のマストが貼られた西洋式の帆船）が手に入るまで、ボートを借りて移動していました。

2. 毒ヘビにかまれた少年！

コスタリカ



ヒッケル

8歳のヒッケルは、コスタリカの暑い日差しの月曜日の午後に、芝生をかけ回っていました。学校が終わり、ロイデンという8歳のお友だちと一緒にサッカーをして遊んでいたのです。教会の庭の柔らかな芝生は、裸足に心地よく感じられました。ヒッケルはゴールのチャンスと見るや、ボールに突進して行きました。そして、足をあげて、力いっぱいボールを蹴りました。

突然、足に鋭い痛みが走りました。足を上げて、足元を見てみました。すると、焦げ茶色に白い縞模様のヘビが、彼のかかとをかんでいます。

ヒッケルは恐怖で目を見開いて、叫びました。「ああああああ！」

その時、ヘビは彼の足から離れ、草むらの中にスルスルと入って行きました。ヒッケルの足は痛みました。しかし、痛みを我慢して、全速力で家まで走りました。怖かったからです。

「お母さん！」と彼は叫びました。「僕、ヘビにかまれた！」。お母さんは、彼の叫び声を聞いて家から飛び出してきました。彼のかかとに、ヘビがかんだ跡が2つ残っていました。お母さんも怖くなりました。お母さんは大急ぎでお父さんに電話をかけました。家に戻って来たお父さんは、ヒッケルを診療所に連れて行きました。医者は、注射器を取り出し、ヒッケルに注射をしました。そして、彼を心配そうに見つめました。

「気分はどうですか？」と、医者は尋ねました。

ヒッケルの顔色が悪かったからです。実際、彼の気分は良くありませんでした。医者はこんなとき、どうすべきかを知っていました。ヒッケルにビニール袋を渡しました。ヒッケルは、素早く袋を口に当てました。「オェ〜！」

昼食のご飯とゆでた青バナナを袋に吐いたのです。

「バタン！」。ヒッケルは気を失って床に倒れました。ヒッケルをかんだヘビがどんな種類か、誰も知りません。危険なヘビでしょうか？ ヒッケルの命は危ないのでしょうか？

人々は、ヘビを見つけるために、教会の庭へと急ぎました。まもなくヘビは、教会の台所裏の草むらの中で見つかりました。

「毒ヘビの赤ちゃんだ！」と誰かが叫びました。

ヒッケルをかんだ毒ヘビは、コスタリカに住む最も猛毒なヘビの一種でした。誰かがヘビを殺して、それを医者に持って行きました。これは、緊急事態でした。

医者はすぐに救急車を呼びました。まもなく救急車が到着し、ヒッケルを診療所から一番近い街の病院に急いで連れて行きました。ヒッケルが2時間後にリモンの街に到着した時、あたりは真っ暗になっていました。病院で過ごすことも、足が大きく腫れ上がっているのも怖かったヒッケル

は、神さまにお祈りしてほしいと、お母さんをお願いしました。お母さんとヒッケルは目を閉じてお祈りしました。

「神さま、どうぞヒッケルの足を治してください」「早く退院できますように」と、お母さんはお祈りしました。そして、お母さんは、神さまが共にいてくださるから大丈夫、と言いました。ヒッケルは信じました。

入院してから3日目のことです。ヒッケルは完全に元気になったという証明書を受け取り、家に帰ることができました。彼は、とても幸せでした！ 神さまがお母さんのお祈りを聞き、いやしてくださったからです。

家に戻ると、町中の人々が、ヒッケルが毒ヘビにかまれ、その後、驚くべき回復を遂げたことを知っていました。そして、誰もが元気で幸せな少年を見て驚くのです。

「これは奇跡だ」と、ある人が言いました。

「子どもを守られる神さまは、本当にいらっしゃるのだ」と、他の人が言いました。

次の安息日に、お母さんの祈りに応えてくださった神さまのことを聞いた9人が、教会にやって来ました。その全員が、イエスさまに心をささげてバプテスマを受けました。

ヒッケルは、生きていることを感謝しています。彼は言います。「神さまは、僕をヘビから救ってくださったのです」

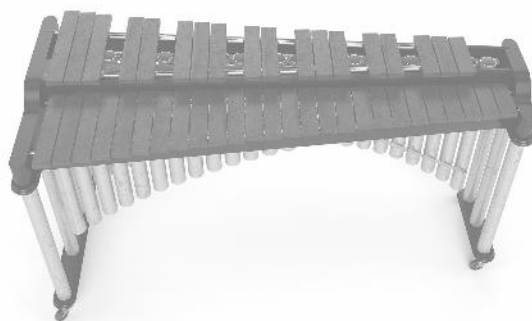
今期の13回献金の一部は、コスタリカの危険にさらされている子どもたちに祈りの力を教えるための感化センターを開設するために用いられます。9月28日に向けて、皆さまの献金のご準備を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 子どもたちにコスタリカの位置を地図で示しましょう。
- ヒッケルの短い YouTube 動画を見てみましょう。 bit.ly/Hickel-IAD.
- ヒッケルをかんだ毒ヘビは、ナンベイハブ〔中南米熱帯地方に生息する三角頭の大形の毒ヘビ〕とも知られています。
- フェイスブックから、このお話の写真をダウンロードしましょう。 bit.ly/fb-mq.
- 中央アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。
- この伝道地便りと今期の13回献金は、コスタリカの危険にさらされている子どもたちにセブンスデー・アドベンチスト教会の「I will Go」伝道戦略の以下の目標を満たすべく感化センターを開設するために用いられます。
「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- コスタリカでは、ギターは特に民族舞踊の伴奏で人気がありますが、コスタリカの国民的楽器はマリンバです。



3. 教会に行きたくない

コロンビア



アロン

ある安息日に、アロンは教会にはもう行きたくないと言いました。

コロンビアでは、コロナの隔離政策が数週間前に解除されていました。人々は数か月間、家から外出できずにいましたが、ついに教会に行くことができるようになりました。しかし、何かが違いました。教会には、9歳のアロンと同じ年の子どもがいなかったのです。社交的な彼はそのことがまったく気に入りませんでした。

教会に行けるようになってから3週目の安息日に、アロンは自分の決心をお母さんに話しました。

「僕は、教会に行きたくない」と、彼は言いました。

お母さんは何も言いませんでしたが、とても悲しみました。

その日の夜、お母さんはお父さんにそのことを

話しました。

お母さんは言いました。「何とかしなければならぬわ」「もし、アロンの友だちが教会に行かないなら、私たちの家を開放して、教会にするのはどうでしょう」

お父さんは、それは良い考えだと思いました。そして、2人は計画を立てて、アロンにそのことを話しました。「私たちの家を開放するから、あなたはお友だちを招待するのよ」と、お母さんは言いました。

お父さんは、みんなでイエスさまの映画を見ようと言いました。

「私たちは、みんなにイエスさまのことを伝えよう」「伝道するんだよ」と、お父さんは、言うのでした。アロンはにっこりしました。そして、その考えが気に入ったので、大きな声で「うん!」と言いました。

アロンは、チャレンジすることが好きです。家に友だちを招いてイエスさまのことを伝えることは、ひとつのチャレンジでした。

彼は家から走り出ると、すぐに隣に住んでいる9歳の友だちを見つけました。

「水曜日の夜、僕の家に来て、イエスさまのアニメを一緒に見ない?」と尋ねました。

「いいよ!」と、その男の子は、元気よく答えました。

アロンは、2番目に見つけた友だちにも同じ質問をしました。その友だちも、来てくれることになりました。しかし、彼の招待を断る人たちもいました。ある友だちは、「僕は、サッカーがあるから行けないよ」と言いました。ある女の子は、「パーティがあるから、絶対に行けないわ」と言いました。3番目の友だちは、「その時、外食するから行けないよ」と言いました。

アロンは気にしませんでした。彼はすべての人がイエスさまを愛しているわけではないこと、ま

た、イエスさまをもっと知りたいと思っているわけではないことを理解しました。

最初の水曜日の晩に、15 人の男の子と女の子がアロンの家に集まりました。

初めに、アロンは子どもたちに 1 週間をどのように過ごしたのかを尋ねました。そして、何曲か賛美歌を歌った後に、祈りのリクエストがないかを尋ねました。祈った後に、彼らは天地創造のアニメを見ました。

それから、お父さんが、子どもたちに神さまについて学んだことを尋ねました。ある友だちは、神さまがすべての人を創造されたことを学んだと言いました。そして、「僕たちは、猿から進化したのではありません」と言うのでした。

子どもたちが毎週アロンの家に来るようになり、お父さんとお母さんは彼らがクリスチャンのアニメを見るだけでは十分でないことに気づきました。数名の男の子と女の子は、とても無礼な話し方をしていました。1 人の男の子は、いつも他の子どもを叩いていました。子どもたちに良い価値観を教えるには、アニメを見るだけでは十分だったのです。

そのため、アロンは友だちを安息日の午後に行われる集會に誘うようにしました。集會では、聖句や楽しい活動を通して良い価値観を学ぶことができました。

まもなく、より多くの子どもたちがアロンの家に、水曜日の夜と安息日の午後に来るようになりました。アロンは安息日の朝にも、教会に一緒に行くように彼らを誘い始めました。

アロンがお母さんに「教会に行きたくない」と話してから 6 か月後、彼の心は変わりました。彼は安息日に教会に行くことを楽しみにしています。なぜなら、教会には同じ年頃の子供たちがたくさんいるからです。彼がみんなを教会に連れてきたのです。事実、子どもだけの安息日学校のクラスができるほどの友だちを連れてきました。そのうちの 10 人の友だちが、イエスさまに心をささげてバプテスマを受ける準備をしています。

「教会には、僕と同じ年頃の子供がいるから教会に行くのが楽しみだよ」と、アロンは言いま

す。

今期の 13 回献金の一部は、コロンビアの子どもたちがイエスさまを学ぶことを助けるために用いられます。9 月 28 日、皆さまの惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 子どもたちに地図でコロンビアの位置を示しましょう。
- アロンの短い You Tube 動画を見ましょう。
bit.ly/Aaron-IAD
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq
- 中央アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードして教えましょう。
bit.ly/iad-2024
- この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「霊的成長の目標」No.6)
「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」(「霊的成長の目標」No.7)
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

宣教メモ

- コロンビアにおける最初のアドベンチスト・ラジオ放送は、2019 年 10 月 26 日に開始されました。放送局の名前は、エスペランザ(希望)・コロンビア・ラジオです。

4. 音楽の奇跡

コロンビア



モイゼス

モイゼスはまだ8歳だった時に、ベネズエラから南アメリカに家族で引っ越してきました。

彼はすぐに、新しい学校の男の子たちがけんか好きで乱暴な話し方をすることに気がつきました。彼は考えました。「もし、彼らがイエスさまを知って、イエスさまを愛するようになったら、あんな振る舞いや話し方をしないだろうに」

彼は、どうやってイエスさまを彼らに伝えたら良いだろうかと考えました。そして、ひとつのアイデアが浮かびました。

休み時間に、モイゼスは数名の子どもたちに運動場で聖書を一緒に読もうと誘いました。3人の子どもが賛成してくれました。そして、彼が聖書のダニエル書を開くと彼らは周りに集まってきました。

3週間後、10人の子どもたちが休み時間にモイゼスの周りに集まり、彼が聖書を読むのを聞きました。先生たちは、子どもたちが熱心にダニエル

書や黙示録について話し合っている姿を見て驚きました。教師の1人が、モイゼスのお父さんに電話をかけて、そのことを驚きながら伝えました。しかし、モイゼスのお父さんは、驚きませんでした。家でモイゼスはお父さんにどうやってダニエル書と黙示録を教えたら良いかを尋ねていたからです。お父さんは息子を誇らしく思いました。

2か月後、聖書グループはとても大きくなり、運動場に昼休みに集まるようになりました。子どもたちは食べながら聖書のことを話し合いました。

モイゼスは、そのグループがとても大きくなったので名前をつけることに決めました。彼は考え、そして考えました。彼は熱心に祈りました。

そしてついに、グループの名前をエベネゼルと名付けました。『エベネゼル』という言葉は、ヘブル語の石という意味の「エベン」と、助けという意味の「エゼル」という二つの語から成り立っています。モイゼスは、子どもたちに神さまが彼らの「助けの石」であることを覚えて欲しかったのです。

数か月が過ぎましたが、モイゼスの同級生は相変わらずけんか好きでした。

モイゼスは、とてもがっかりしました。彼は同級生に、イエスさまのことを教えるもっと良い方法がないかと考えました。彼は考え、そして考えました。彼は熱心に祈りました。

そして、彼はあることに気がつきました。すべての子どもたちは、音楽が好きだということです。彼には、その理由が理解できました。自分自身も音楽が好きだったからです。実際、彼はキーボードにギター、バイオリン、フルート、そして、ウクレレも弾くことができました。しかし、彼の同級生のほとんどは何の楽器も弾けませんでした。

モイゼスは、音楽クラブを始めることに決めました。彼は同級生に、神さまをたたえる音楽を教

えることにしました。

クラブが始まると、6 人の子どもたちが熱心に参加しました。モイゼスは楽器を用意して、学校で練習できるようにしました。さらに、自分のバイオリンやフルートも同級生に貸して、自宅で練習できるようにしました。

モイゼスが美しい賛美の調べを子どもたちに教えると、クラブはどんどん大きくなっていきました。

クラブは、すばらしい音楽を奏でることで知られるようになりました。まもなく、若い音楽家たちが礼拝や他の学校行事で演奏するようになりました。年度末には、卒業式で演奏しました。

数年が過ぎました。モイゼスは、9 年生を終えるまで、音楽クラブを指導しました。その学校には 10 年生がなかったので、他の学校に移って高校を終えなければなりませんでした。

しかし、音楽クラブの集まりは続きました。モイゼスが去った後、学校は音楽を公式な科目として決めました。そして、モイゼスは最初の教師として毎週、音楽を教えました。

今日、モイゼスはまだ 14 歳ですが、すでに 25 人の生徒の音楽教師です。彼は、何の報酬も受けていません。彼は親切心から音楽を教えています。彼は子どもたちに、音楽を通してイエスさまを伝えたいのです。

彼の働きは実を結びました。けんか好きで、乱暴に話していた 1 人の少年が、イエスさまに心をささげてバプテスマを受けました。彼は、新しい少年になりました。

モイゼスは、他の多くの子どもたちもイエスさまのことを知ってほしいと願っています。「私が音楽クラブを始めたのは、子どもたちにイエスさまのことを伝えるためなのです」と、彼は言います。

今期の 13 回献金の一部は、コロンビアの子どもたちにイエスさまのことを伝えるために用いられます。9 月 28 日に、皆さまの惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 子どもたちに地図でベネズエラとコロンビアの位置を示しましょう。
- モイゼスの短い You Tube 動画を見てみましょう。bit.ly/Moises-IAD.
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq.
- 中央アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードして教えましょう。Bit.ly/iad-2024.
- この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の目標の具体例です。
「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

豆知識

- コロンビアの希少なメガネグマは、南米に生息する唯一のクマです。



5. 激しい気性を変えられて

ドミニカ国



キットワナ

7歳のキットワナは、火のように激しい気性を持っていました。

学校で、通りすがりの少年が彼女の足に軽く触れたとき、彼女は椅子から飛び降りると、こぶしを振りかざしてこう叫びました。「彼が私を殴った！」

先生は、教室内でけんかが始まってほしくはありませんでした。そのため、先生はその男の子に何があったのかを尋ねました。「僕が通り過ぎたときに、彼女の足にちょっと触れただけです」と、彼は言いました。「わざとではありません」

他の子どもたちも、彼がキットワナを傷つけるようなことは何もしていないと同意しました。

先生は、怒っている少女を落ち着かせようとしていました。

「彼は偶然、あなたに少し触れただけよ」と、先生は言いました。

しかし、キットワナは自分の誤りを認めようと

はしませんでした。彼女はこぶしを握りしめたまま、荒い息をしています。彼女は、男の子が彼女を殴ったと確信しているのです。

「彼が私を殴ったのよ！」と、彼女は叫びました。

カリブ海の島国ドミニカ国にある、エベネゼル・セブンスデー・アドベンチストの小学校に通う、キットワナが機嫌を損ねるといつもこんな感じでした。彼女は、学校の勉強はよくできました。先生たちは彼女を優秀だと言いました。ところが、彼女は自制心に欠けていました。もし誰かが彼女に触れたり、彼女の持ち物を触ったりすると、彼女は怒って椅子から飛び降り、けんか腰になるのです。

ある日、ケールンという少年がキットワナの机から鉛筆を取り出しました。彼は宿題をするために、鉛筆を借りたかったのです。

キットワナは怒り狂いました。彼女は飛び上がってケールンの顔を殴り、「返せ！」と叫びました。

ケールンは顔を殴られたことが気にいらず、殴り返しました。すぐに、2人は取っ組み合いのけんかを始めました。

校長先生が教室に入って来ました。「席につきなさい」と、彼女は命じました。ケールンはすぐに自分の席に座りましたが、キットワナはそうしませんでした。「キットワナ、自分の席につきなさい」と、校長先生が言いました。

しかし、キットワナはけんかを止めようとはしませんでした。ケールンが最後に彼女を殴ったので、彼女は最後の一撃を加えたかったのです。

彼女はケールンに向かって走りました。しかし、校長が前に出て彼女の道をふさぎました。キットワナは不公平だと感じました。彼女は最後の一撃を与えなければならないと思ったのです。そのため、カッとなって、校長先生を殴り始めました。

キットワナは、クラスの先生がケールンを教室

の外に連れ出し、彼女の視界から彼が見えなくなって、ようやく落ち着きました。

それから校長先生は、キットワナのお母さんに電話をかけました。キットワナは、ケールンと校長先生を殴った罰として、3日間の停学になりました。

お母さんは、涙を浮かべてキットワナを迎えに来ました。お母さんはどうしてよいのかわかりませんでした。校長先生も他の先生たちもお母さんと一緒に泣きました。彼らもどうしたらよいかわからなかったのです。彼らはキットワナを愛していましたが、彼女のかんしゃく持ちは、どうすることもできないように思われました。

この事件を話し合った後、校長先生と他の先生たちは、この少女に愛と忍耐を惜しみなく与えることに決めました。また、祈ることも決めました。

すると、信じられないことが起こりました。数週間、数か月が過ぎると、キットワナは次第に忍耐強くなり、争い事も減っていったのです。ついに、争い事はすっかり止まりました。かつて火のような気性で知られていた少女は、親切で礼儀正しい少女になりました。

キットワナは学校を卒業するときに、自分の振る舞いを反省しました。彼女は先生たちが示してくださった愛と忍耐を覚えていました。彼女は感謝をあらわすために、何かをしようと決心しました。彼女は、『キットワナ・テオフィル奨励賞』という彼女の名前にちなんだ特別な賞を設立しました。その賞は、彼女がそうだったように、自制心のない女の子や男の子が親切で礼儀正しくなった場合に贈られます。彼女は毎年、勝利を収めた児童にガラスの記念碑を賞品としてプレゼントしました。

「セブンスデー・アドベンチスト学校の先生方の愛のおかげで、今日の私があるのです」と、彼女は言います。

今期の13回献金の一部は、キットワナの小学校を支援するために用いられます。エベネゼル・セブンスデー・アドベンチスト小学校の新校舎をドミニカ国の首都ロゾーに建設することで、事業

の拡大を図ります。9月28日に、皆さまの惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 子どもたちに地図でドミニカ国の位置を示しましょう。さらに、13回献金の助けによって小学校が建てられるドミニカ国の首都ロゾーの場所も示しましょう。
- キットワナの短い YouTube 動画を見てみましょう。bit.ly/Kitona.
- エベネゼル・セブンスデー・アドベンチスト小学校は真の伝道学校で、キットワナを含む多くの子ども達が他教派の家庭から来ています。『エベネゼル』という言葉の意味は、2つのヘブル語から成り立っています。石を意味する「エベン」と、助けを意味する「エゼル」の2つです。学校の名前は、主が彼らの「助けの石」であることを思い起こさせてくれます。
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb.mq.
- 中央アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードして教えましょう。bit.ly/iad-2024.
- この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

6. 学校に行くための祈り

ドミニカ



キーヤ

あなたは学校に行くのが好きですか？ キーヤは、ドミニカ島の学校が大好きで、ひどい竜巻の後に学校に行けるようにずっと祈っていました。

キーヤは、エベネゼル・セブンスデー・アドベンチスト小学校にいつも通っていたわけではありません。1年目は、お母さんからホームスクーリングを受けていました。2年生から本当の学校で学ぶことができることを聞いて、彼女は大喜びしました。「わたしは本当の学校に行くのよ！」と、喜びの声をあげました。

初めての登校日の朝、キーヤはとても早く起きました。彼女は興奮を抑えきれず、満面の笑みを浮かべました。

その後も、変わりませんでした。毎日彼女は、学校にワクワクしながら通いました。

彼女は、夏休みが終わって、秋になって学校に

戻り、3年生が始まるのを待ちきれませんでした〔キーヤの学校の新年度は秋に始まります〕。3年生が終わると、彼女は4年生が始まるのが待ちきれませんでした。彼女は学校が大好きなのです！

しかし、4年生の新学期が始まる数日前に悪いことが起こりました。小さな島を、大きな竜巻が襲ったのです。激しい風が、街を壊しました。激しい風が、橋に被害を与えました。激しい風が、建物を破壊しました。そして、激しい風が、キーヤの学校の屋根をはぎ取りました。屋根がなくなり、雨が教室に入るようになりました。そのため、机も椅子もだめになりました。学校は子どもたちにとって安全な場所ではなくなり、新学期が始められなくなりました。さらに悪いことに、いつ屋根の修理がなされるか、誰にもわかりませんでした。

キーヤはとても悲しみました。彼女は祈りました。「天のお父さま、あなたは私たちのすべての問題をご存知です。私たちは新しい学校を必要としています。どうか、新しい学校を私たちに与えてください」

彼女は毎晩祈りました。彼女の同級生も祈りました。学校の先生たちも祈りました。

6週間が過ぎました。キーヤは、家にずっといることに疲れました。外が安全ではないので家から出られないのです。労働者たちは、道路や橋を補修し、竜巻によって破壊された建物を修理しました。島のすべての住民が、家に閉じ込められたように思われました。

キーヤは祈り続けました。「天のお父さま、あなたは私たちのすべての問題をご存知です。私たちは、新しい学校を必要としています。どうか、新しい学校を私たちに与えてください。」

ある日の午後、お父さんはキーヤに言いました。「学校に行けるよ！」

公立の学校が、アドベンチスト学校の子どもたちが午後集まり、教室を使うことを認めてくれたのです。

キーヤはとても幸せでした！ 彼女はついに家から出られるのです。彼女は、ついに友だちに会うことができるのです。彼女は寝る前に神さまに感謝をささげることが待ちきれませんでした。

「神さま、ありがとうございます！ 神さま、感謝します！」と、彼女は祈りました。

学校を借りた最初の日、キーヤの友だちは走り寄って彼女を抱きしめました。それは、とてもすてきなことでした！ 子どもたちは6か月間、公立の学校で学びました。そしてついに、アドベンチスト学校の屋根が修理されて彼らは戻ることができました。キーヤはとても幸せでした！

現在、キーヤには新しい祈りの課題があります。彼女のように、たくさんの子どもたちがアドベンチストの学校で学びたいと望んでいますが、彼らのために十分な教室がありません。彼女は神さまに、もっと大きな学校に移れるようにとお祈りしています。

彼女は祈ります。「天のお父さま、新しい学校のための資金を私たちにお与えください。あなたが私たちに与えてくださるすべてのものを感謝いたします。イエスさまのみ名によって祈ります。アーメン」

キーヤは、恐ろしい竜巻の後と同じように、神さまが彼女の祈りに応えてくださることを知っています。彼女のお父さんは建築家であり、今、より大きな校舎を設計しています。今期の13回献金の一部は、ドミニカ国の首都ロゾーの小学校の建設費用のために用いられます。9月28日に、皆さまの惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 子どもたちに地図でドミニカ国の位置を教えましょう。それから、13回献金の助けによって小学校が建設されるドミニカ国の首都ロゾーの位置を教えましょう。
- キーヤの短い YouTube の動画を見ましょう。

bit.ly/Keya.

- キーヤのように、神さまが祈りに答えてくださることを信頼して祈るように子どもたちに勧めましょう。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」(マタイ7:7、口語訳)
- フェイスブックで、このお話の写真をダウンロードしてみましょう。bit.ly/iad-2024.
- 中央アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードして教えましょう。bit.ly/iad-2024.
- この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
 - 「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)
 - 「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「霊的成長の目標」No.6)
 - 「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」(「霊的成長の目標」No.7)詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

豆知識

- ドミニカ周辺のカリブ海には、マッコウクジラ、ハシナガイルカ、マダライルカなど、多くのクジラやイルカが生息しています。

